

令和6年度奈良県公立学校

教員募集のお知らせ



奈良県の子どもたちのために

令和5年度新規採用の先生方を私たちの新しい仲間として迎えました。咲き誇る桜に見守られ、教員としての第一歩を踏み出してくれました。

Society5.0の到来に伴う社会変革やグローバル化、急速な少子高齢化の進展により、近年の日本をとりまく社会環境は大きく変化し、学校現場においても教育の在り方が大きく変化しました。否応なく変化が求められるこの激しい時代を生きる奈良県の子どもたちには、生涯にわたって「学ぶ意欲」をもち続けてほしいと願っています。なぜなら、「学ぶ意欲」は全ての力の源であり、自身の可能性を最大限に伸ばす「鍵」となると考えるからです。今後はさらに、必要な知識・技能などを習得したうえで、主体性を持って探究的な学びを積み重ね、実践的な課題解決能力を伸ばし、持続可能な社会づくりにつながる真の力を付けるとともに、時代の変化に柔軟に対応し、自ら人生を創出することができる豊かな力が求められるでしょう。

奈良県の先生には、「第2期奈良県教育振興大綱」の「本人のための教育」という奈良県教育の目指す方向性をふまえ、「奈良の学び推進プラン」の実現に向けて取り組んでいけるよう、「専門的力量」、「人間的な魅力・人間性」、「学び続ける意欲」の3つを備えていただきたいと思います。ICT機器等も有効に活用しながら、授業の本質である対話を重視した授業への転換を図り、子どもたちが持つ多様な個性・才能・創造性をより引き出し、新たな時代に対応した「個別最適化した学び」の実現のため子どもたちとともに挑み続けることができる、そのような先生が必要です。

学校は誰のためにあるのかと問われると、それは「子どものため」と誰もが答えるでしょう。では、学校は何のためにあるのかと問われれば、私は、学校は「不可能を可能にするため」にあると答えます。昨日できなかったことが今日できるようになる。今日上手にできなかったことが、明日少し上手にできるようになる。学校は学びの場であり、伸びる場であり、いくつもの「感動」がちりばめられている、そういう場所であってほしいと思います。子どもの成長を願いつつ、自らを磨き続けることで培った深い専門性と豊かな人間性で、子どもたちと正面から向き合うこと、そしてその成長に立ち会えることが教員の「喜び」であり、「やりがい」です。

みなさんにとって、「記憶に残る先生」とはどのような先生ですか。

うれしいとき共に喜んでくださった先生、辛いとき優しく寄り添ってくださった先生、ためらっているときそっと背を押してくださった先生、時に厳しく指導してくださった先生……。この「先生」との出会いにより、教員を目指した方もいるのではないのでしょうか。「先生」との出会いは、子どもたちの生涯に大きな影響を与えます。そのときは分からなくても、成長した子どもたちの人生に生きている教員もあります。教員には定年がありますが、「先生」を引退することはできません。「先生」は、いつまでも教え子たちにとって「先生」であり続けるのです。教え子がいくつになっても「先生」として、その言葉が、その存在が教え子たちの心の支えとなる、奈良県はそんな「先生」を求めています。

奈良県の教員を目指すみなさん！

子どもたち一人一人が持つ多様な個性・才能・創造性と向き合い、伸ばす教育を展開することで、奈良県の学校教育の質をさらに高めていくことができます。皆でアイデアを出し合いながら、奈良県の教育に新たな価値を生み出していきましょう。

教育は未来をつくる営みです。私たちの仲間になって、奈良県の子どもたちの未来のために一緒に頑張りましょう。



奈良県教育委員会教育長 吉田 育弘

奈良県が求める教員像

- 子どもの学ぶ意欲を高め、生涯にわたり学び続ける力をはぐくむ人
- 豊かな人間性をもち、「生きる力」を備えた心身ともに健やかな子どもをはぐくむ人
- 奈良の伝統、文化を理解し、地域と社会的絆の中で子どもをはぐくむ人

第2期奈良県教育振興大綱

奈良県教育が目指す方向性

本人のための教育

1. 「学ぶ力」をはぐくむ
2. 「生きる力」をはぐくむ

教育施策の基本方針

1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ
4. 地域と協働して活躍する人を育てる
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる

先輩たちの声

「教師としてのやりがい」

菅原小学校 東 悠河

「どんな子どもたちに出会えるのだろう」という期待と不安を胸に、教員生活が始まりました。いざ、子どもたちに出会ってみると、子どもたちの底抜けの元気さに驚かされ、今では、その姿を見る度に、いつもパワーをもらっています。その一方で、性格も考え方も異なる子ども一人一人と、信頼関係を築くことの難しさを実感し、悩むこともありました。周りの先生方にアドバイスをいただき、粘り強く子どもと向き合う中で、子どもの行動の背景にあるその子の本心を理解することが、子どもの心に寄り添う一歩になることを学びました。

子どもたちのために何ができるのかと考え、試行錯誤する毎日ですが、そのような日々に教師としてのやりがいも感じています。



「子どもと共に成長する」

新庄小学校 杉村 佳乃

私が担任するクラスに毎日泣いている児童がいました。一番ショックだったのは、算数の問題が分からなくて泣いていたことです。泣いた日の放課後は私も反省し、授業の進め方についてさらに工夫するようにしました。その想いが伝わったのか、その児童自身も泣かない努力をするようになりました。最近では算数の時間に発表するようになり、間違えても自分を受け入れ、周りからも応援されることで、前向きに切りかえられるようになりました。やはり、教員として大切なことは、授業の工夫と児童に寄り添うことだと思いました。これからも児童一人一人と真剣に向き合い、子どもと共に歩んでいきたいです。



「好きなこと」

曾爾小中学校 小谷 太一郎

4月、私は学校で子どもたちに出会いました。緊張と不安を精一杯隠しながら、堅苦しい挨拶をした私を、子どもたちはキラキラした顔で、「新しい国語の先生」として出迎え、話しかけてくれました。その顔について緊張が緩み、私は「私の好きなこと」についての話をしました。そうすると、子どもたちからもそれぞれの好きなアニメやマンガ、小説、アイドル、車、釣り、電車…のことをそれはそれは詳しく教えてくれました。半年が過ぎ、忙しい日々も経験し、自らの力不足に悩むこともあります。ただその度に子どもたちとの何気ない会話で、楽しそうな声を聞く度にまた前向きになっています。これからもっとたくさんの「好きなこと」を知っていこうと思います。

